

文教産業委員会

行政視察の報告

8月19日～21日の3日間、次の調査研究項目について視察を実施しました。

- 八戸屋台村「みろく横丁」の取り組みについて（青森県八戸市）
- 中心市街地活性化について（青森県八戸市）
- 小学校の統合について（青森県つがる市）

八戸屋台村「みろく横丁」の取り組みについて 〔八戸市 8月19日〕

◎概要

八戸屋台村「みろく横丁」は、平成14年、次のコンセプトをもとにオープンした。

八戸屋台村コンセプト

① 新幹線八戸駅開業におけるおもてなしの目玉として

② 中心市街地の活性化

③ 日本初の環境対応型

屋台村（全施設がエコロジー施設・バリアフリー型、エコステーションの設置）

④ 情報発信基地として

⑤ 若手起業家の育成

⑥ 八戸の郷土・名物料理を一堂に集めて紹介

⑦ スローフード時代への幕開けの象徴（地産地消の徹底、コミュニティ重視）

八戸屋台村が成功した理由は、場所（地元の人々の通行量、ビジネスホテルの数等）、創業者の強いリーダーシップ

プ、マスコミの活用があげられる。また、昼間は子ども向けのイベントを行うなど、単なる飲み屋街にとどまらず、人の流れを郊外から取り戻し、老若男女すべての市民が満足できる広場となっている。

◎考察

八戸市の場合、地元で愛される横丁を指したが、観光客向けの屋台村として成功するためには、ホテルとの連携、地元の人々の工夫が必要であり、マスコミをいかに上手く利用できるかがカギとなる。本市においても同様の取り組みがすすめられているが、おもてなしの心をもった客とのコミュニティ



八戸屋台村「みろく横丁」視察の様子

ンを重視し、徹底した地元産品の活用による運営を行い、若者の起業への足掛かりになるような取り組みを期待したい。

中心市街地活性化について 〔八戸市 8月20日〕

◎概要

文化・芸術等の活動

や観光の促進を目的とする市民交流・観光交流の複合拠点として、平成22年に八戸ポータルミュージアム「はっち」を開館。約20年間減少傾向が続いていた「歩行者通行量」「居住人口」「空き店舗率」等の各指標が改善傾向となった大きな要因となっている。

運営は市直営となっており、正職10名程度と嘱託職員24名体制、運営費は利用料を主とした歳入約2千400万円に対し、歳出は人件費、自主事業の実施経費等で約2億6千600万円にのぼる。

◎考察

「はっち」は、買い物以外の目的での来街者を増やす公共施設として整備され、「地域と資源を活かす」「市民とともに作り上げる」「街中を回遊してもらう」ことを柱に、八戸の新しい魅力づくりにまい進している。



八戸ポータルミュージアムはっち

直営での運営にこだわり、年間2億円余りをつぎ込む運営体制は自主運営事業の幅を広げ市民協働の活動を大きく前進させている。本市では「まちの博物館」が建設され、賑わいづくりに成功しているが、中心市街地活性化に必要な市民生活と観光との融合という意味では、「はっち」の活動は一つのお手本であり見習うべき方向性であると考える。

小学校の統合について 〔つがる市 8月21日〕

◎概要

つがる市では、複式学級の解消を主目的として学校統合を行った。

統合までの地区説明会では、地域のシンボルがなくなることや、地域文化の伝承が衰退することへの不安等の意見が出されたが、会を重ねるうちに教育課題への理解が進み、両者の意見が歩み寄った結果、統合に至った。現在は小中一貫に向けた環境整備を進めている。

◎考察

説明者の「子どものことを考えるなら、行政はどれだけでも早く動かなければならない」という言葉に心を動かされたが、複式学級を解消すべき課題と切り分けるには一般論ではない数値的な根拠が必要だと考える。本市においてはその議論を始めるための方向性が早い段階で出されることを期待したい。